

平成29年度 事業計画



倉敷芸術科学大学

本学は「信頼の教育」を第一に考え、ここに学ぶ若者一人ひとりの潜在能力を引き出し、個性を生かしながら、教養の向上、専門能力の向上、そして人格の向上を遂行する教育を行います。



本学の教育に関する方針は「建学の理念」に基づき、有能で人間性豊かな人材を育成する。そのために教員個人の教育力は勿論のこと、チームワークとしての教育力を増強

し、教職員一体となって学生の指導にあたり、地域社会に貢献する人材の育成に努めます。本学の教員は、それぞれの教育目標を保持し高い見識を持って、若者の育成に情熱を持って努力します。

教員にとって教育活動は必要条件であり、研究活動は十分条件です。教育の質の向上のために研究は不可欠であり、研究活動遂行のために外部研究資金等の獲得を促進します。また、教職員の評価方法等について研究し、実施します。

学生が勉学に専念し、有意義な学生生活を送れるよう、各種支援体制を構築します。

本学の教育研究成果を地域社会に還元することによって地域社会の発展に貢献します。また、地域の行政や産業界、諸団体と連携交流を図り、地域に期待され、愛される大学をめざします。本学の目的、すなわち建学の理念に基づいたオンリーワン教育を遂行するため、機能的な管理運営体制を整備します。

倉敷芸術科学大学 学長 河野 伊一郎

教育

1. 教育

(1) 全学的教学マネジメント体制の構築

- ① 学修成果の達成状況の検証体制を確立します。
 - ・ポリシー等の学生の認知度について、周知方法の確認を行います。
 - ・コモンルーブリック案の評価・検証を実施します。
 - ・「教育プログラム」の検討内容を学科の科目構成やカリキュラムポリシーの見直しに繋げます。
 - ・教育理念・目標を達成する教育課程を編成していくための点検方法をまとめます。
 - ・主体的な学びを促進するシラバスを作成していくための点検方法をまとめます。
 - ・教育理念・目標及び方針の学生への周知方法の有効性について検証します。

- ② 教学組織の再編や既存学部学科の見直し、他機関との連携を含めた弾力的な組織づくりを構築します。

(2) 大学院教育の再構築

- ① 定員規模を見直すとともに、将来の方向性を明確にするために抜本的な大学院組織改革に取り組みます。
 - ・基礎となる学部と研究科のマッチングのあり方等について、引き続き検討します。
 - ・学部・学科と大学院の教育課程の連携・接続を確保するために、系列及び教育課程を見直します。
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率を向上させるために、効果が期待される諸方策を実施します。

(3)教育支援体制の充実

① 教育業績評価に取り組み、その優れた教育業績に対する適切な評価体制を構築します。

2. 学生支援

(1)学習支援のための教育環境の整備

①学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる学習支援の場を整備します。

・ラーニング・コモンズの設置を検討します。

②障がいのある学生に対する実効性のある支援体制の充実、学習環境の整備をします。

(2)学生生活の活性化に向けた支援の充実

①キャンパスライフを充実させるために、部活動等の課外活動の支援体制を強化します。

・人を思いやる心を養うための一助としてオリエンテーション等を通じ広くボランティア活動への参加を促します。

②学生自己評価・診断システムを含めた学生関連情報等を統一管理するよう検討します。

・学業不振や心の悩みを抱える学生の早期発見のため、学生カルテの利便性をより高め、学生生活指導や支援材料とします。

3. 就職支援の充実

①教員の全面的協力を含む体制を構築します。

・就職委員は、キャリアセンター及び各学科教員と連絡を取り、積極的に企業情報の収集に努め、学生への指導を一層強化します。

・学生の身近にいる教員が学生との距離を縮め、学生からの強い信頼を得て、学生の就職意欲向上をめざします。

・学生への調査「大学基礎レポート」「キャリアアプローチ」で得た情報を就職支援の一層の充実に繋げます。

②キャリア形成力や就業力を向上させるために、教育的効果の高いインターンシップ（就業体験）を積極的に推進、充実させます。

研究・創作

1. 研究・創作

①「芸術と科学の協調」に沿う研究など、領域を横断した総合研究を大学として全面的に推進・支援します。

②科学研究費や外部資金の確保など、目に見えるかたちでの社会的評価を得るよう努力します。

2. 国際的競争力の強化

①倉敷の知名度を活かし、海外からの研究者やアーティストの交流を積極的に進めます。

②日本人学生の留学を促進するとともに、優れた留学生の確保に努めます。

社会連携

1. 社会連携

①提携高校、他大学、地場経済界、自治体からなるプラットフォーム(連携拠点)を形成していきます。

②地域プラットフォーム(連携拠点)間での共同研究・人材相互交流等を推進していきます。

2. 高大接続改革

①提携高校との教員及びカリキュラム交流を強化し、地域における高等教育の体系的な教育プログラムの整備を行います。

②地域でのボランティア活動、まちづくりプロジェクト等の体験活動を推進し、卒業生の倉敷地域への定住化を促進します。

内部質保証

1. 内部質保証

①アクションプラン自体の進捗状況や有効性・効率性を確認し、方針・規程・計画改訂等を定期的に

見直しする体制を構築します。

2. 教職員の能力開発

- ①教職員が適切な能力を有していることを確認するための点検・評価や、教職員の育成・能力向上のための方策を作り、計画的に実施する体制や仕組みを構築します。

3. 学習環境や学生支援の点検・改善

- ①施設・設備等に関する点検・評価の項目や基準を設定し、改善案を計画的に実施する体制や仕組みを構築します。

4. 質保証への外部関係者の関与

- ①外部関係者の参加や意見聴取により、質保証の客観性や専門性を確保し、公平で質の高い点検・評価を実施するための仕組みを構築します。

経営基盤の安定化

1. 経営基盤の安定化

(1) 組織的な大学運営

- ①全学的な教職協働体制を整備します。(各種委員会位置付け再編)
- ②教員の採用計画の策定と適正な教員定数の設定を行っていきます。

(2) 財政基盤の安定化

- ①内部資源の見直しや外部資源との連携を図り、広報機能の強化・ブランド力の確立をめざします。
- ②経費抑制の中期的な予算戦略を立案し、予算編成・配分方法など見直します。
- ③入試の変革、入学者選抜体制の改革を検討します。
- ④寄付金・補助金を含む外部資金獲得の増加をめざし、そのための方策を検討します。
- ⑤学費収入以外の収入の多様化に向け、本学の遊休施設、設備等の有効利用を検討します。

学生の受入

■広報支局長による広報活動強化

高校生にとって進路選択に際しもっとも影響を受ける高校教員との密接な関係を築くため、高等学校の現状に詳しい、本学担当広報支局長による高等学校訪問を強化することで、高等学校現場での認知度向上に努めます。

■高等学校訪問の見直し

岡山県内の高等学校訪問を重点的に実施するとともに、特に通学圏内である福山地区高等学校、予備校、私塾を中心に募集活動の展開を強化することで認知度向上に努めます。

■教育提携校との連携強化

高校生にとって将来を考えるきっかけとなるように、本学の見学や授業体験、芸術学部卒業制作展鑑賞会などの受け入れを継続します。また、教育提携校へ講師を派遣しての模擬授業等の高大連携を強化し、大学での学びの提供を行います。

■入試方法等

設置する学部・学科のアドミッションポリシーに沿った入学者の受入及び広範囲となる地域からの受験生ニーズに応えるべく、利便性に配慮した入試の実施に努めます。また、今年度からセンター試験利用入試にて面接による加点方式を導入する等、受験生の多様性を評価する入試を実施します。

人事・組織

■学部長・研究科長の選出

学部長及び研究科長の任期満了に伴い、学部長、研究科長の選出を行い、4月から新体制で大学運営を行います。

■学部の改組及び学科、大学院専攻の廃止

・平成29年4月より、産業科学技術学部経営情報学科を社会情勢の変化に対応する形で、経営・経済学分野を学びの中心とした危機管理学部危機管理学科に改組します。

・平成29年3月31日付で在籍者が卒業・修了したため、芸術学部美術工芸学科及び大学院修士課程芸術研究科工芸専攻を廃止します。

■事務組織の変更

・障害者差別解消法の平成28年4月1日施行に伴い、平成28年度は暫定的に学生課、健康管理センターに障害者支援に関する項目を追加し、運用してきましたが、平成29年度から「健康管理センター」を「健康支援センター」に変更し、その下に「健康支援課」と「特別支援課」を設置し、障害者支援の充実を図ります。

・「企画室」を「IR・企画室」に名称変更し、従来の企画関係業務に加え、教育・研究に係る情報収集・分析、並びに将来を見据えたビジョン・中期目標・計画に関する業務を行っていきます。

主な行事予定

4月4日	入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式
4月6日 ～9日	新入生・在学生オリエンテーション
4月9日	大学院(通信制)入学宣誓式
4月11日	前期授業開始
4月15日	霞祭
6月4日	春オープンキャンパス
7月29日 30日	夏オープンキャンパス
8月1日 ～7日	前期定期試験
8月9日 10日	教員免許状更新講習会
9月9日	教育懇談会(地方会場)
9月16日	教育懇談会(本学会場)
9月22日	学位記授与式、留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月25日	後期オリエンテーション
9月26日	後期授業開始
9月30日	秋オープンキャンパス
10月28日 29日	芸科祭 芸科祭・保護者対象オープンキャンパス
11月9日 10日	認証評価実地視察
11月14日	就職懇談会(東京会場)
11月18日	合格者大学相談会1回目
2月5日 ～9日	後期定期試験
2月17日	合格者大学相談会2回目
2月26日	就職懇談会(大阪会場)
2月27日	就職懇談会(広島会場)
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成29年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			
			留学生	社会人			留学生	社会人		
大学院	芸術研究科(博士)	4	1	0	0	12	3	1	0	
	芸術研究科(修士)	10	5	2	0	20	7	3	0	
	産業科学技術研究科(博士)	2	0	0	0	10	2	0	0	
	産業科学技術研究科(修士)	8	3	0	0	24	6	0	0	
	人間文化研究科(修士)	15	4	2	1	30	6	3	1	
大学院 計		39	13	4	1	96	24	7	1	
学部	芸術学部	メディア映像学科	50	52	5	0	204	177	17	0
		デザイン学科	—	—	—	—	—	2	0	0
		デザイン芸術学科	55	37	7	0	220	145	16	0
	計		105	89	12	0	424	324	33	0
	技術産業学部	経営情報学科	(募集停止)	—	—	—	284	107	26	0
		観光学科	(募集停止)	—	—	—	—	1	0	0
		計	0	0	0	0	284	108	26	0
	生命科学部	生命科学科	50	34	0	0	200	177	0	0
		健康科学科	—	—	—	—	—	4	0	0
		健康科学科(健康科学専攻)	55	49	1	0	220	225	1	0
健康科学科(鍼灸専攻)		30	13	0	1	120	38	0	1	
生命動物科学科		—	—	—	—	—	3	0	0	
動物生命科学科		60	46	0	0	244	182	0	0	
生命医科学科		50	64	0	0	200	216	0	0	
健康医療学科	(募集停止)	—	—	—	—	1	0	0		
計		245	206	1	1	984	846	1	1	
学危機管理部	危機管理学科	90	67	16	0	90	67	16	0	
	計	90	67	16	0	90	67	16	0	
学部 計		440	362	29	1	1,782	1,345	76	1	
通学制 合計		479	375	33	2	1,878	1,369	83	2	
大学院(通信制)	芸術研究科(修士)	10	1	0	1	20	1	0	1	
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0	
	人間文化研究科(修士)	30	2	0	2	60	3	0	3	
計		60	3	0	3	120	4	0	4	
通信制 合計		60	3	0	3	120	4	0	4	
総合計(通学制+通信制)		539	378	33	5	1,998	1,373	83	6	
別科	留学生別科	60	14	14	—	80	28	28	—	
	計	60	14	14	0	80	28	28	0	

(単位:人)

■教職員数

(平成29年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	3	50	24	13	3	1	1	96	61

(単位:人)

*副学長(奥本 寛)は教授人数から、副学長(加計 悟)は講師人数から除く

*学長補佐(濱家 輝雄・許 南浩)2名は人数外

財務関係

■事業活動収支

■施設設備整備計画

(単位：千円)

(単位：千円)

年度		29年度	前年度	
科目		予算額	決算額	
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,055,381	2,138,717
		経常費等補助金	282,393	276,019
		その他収入	93,704	126,503
		計	2,431,478	2,541,239
	支出	人件費	1,856,793	1,894,232
		教育研究経費	885,151	822,173
管理経費		300,761	268,633	
その他支出		0	130	
	計	3,042,705	2,985,168	
	教育活動収支差額	△611,227	△443,929	
教活外	収入	受取利息等	19	2
	支出	借入金利息等	9,701	10,556
		教育活動外収支差額	△9,682	△10,554
	経常収支差額	△620,909	△454,483	
特別	収入	資産売却差額等	2,200	1,036
	支出	資産処分差額等	0	6,115
		特別収支差額	2,200	△5,079
	基本金組入前収支差額	△618,709	△459,562	
	基本金組入額合計	△273,334	△104,199	
	当年度収支差額	△892,043	△563,761	

事業名	金額
ヘルスピア倉敷外壁修理工事(第1期)	37,853
ヘルスピア倉敷氷上整備車ガレージ新築工事	4,698
学内ネットワーク整備事業(リース導入)	71,455
Webポータルシステム用サーバー一式	10,530
学内監視カメラ更新	3,933
22号棟1階講義室机・椅子更新	2,281

倉敷芸術科学大学
中期計画の進捗状況一覧

教育	H29	H30	H31	H32	H33	中期目標
1. 教育						
(1) 全学的教学マネジメント体制の構築						
- ① 学修成果の達成状況の検証体制の確立	案策定	実行				
- ② 教学組織の再編や既存学部学科の見直し、他機関との連携を含めた弾力的な組織づくりの構築	他機関との折衝		案策定	実行		
(2) 大学院教育の再構築						
- ① 定員見直しと将来の方向性を明確にするための抜本的な組織改革への取組	案策定		定員充足			人間教育を重視する大学として必要な教育支援体制を充実・強化し、教育課程の検証・改訂体制を確立する。
(3) 教育支援体制の充実						
- ① 教育業績の評価に取り組み、その業績に対する適切な評価体制の構築	実施	実施、検証	実施、検証	システム評価		
2. 学生支援						
(1) 学習支援のための教育環境の整備						
- ① 学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる学習支援場の設定	案策定		満足度8割以上			学生一人ひとりが、主体的に学ぶことができる教育環境を整備するとともに、勉学に専念し、有意義な学生生活ができるよう、修学支援・生活支援・進路支援体制を構築する。
- ② 障がい学生への実効性ある支援体制の充実と学習環境の整備	案策定		満足度9割以上			
(2) 学生生活の活性化に向けた支援の充実						
- ① キャンパスライフを充実させるため、部活動等の課外活動への支援体制の強化	案策定		満足度9割以上、退学率全国平均以下			
- ② 学生自己評価・診断システムを含めた学生関連情報等の統一管理	案策定		退学率前年度以下			
3. 就職支援の充実						
- ① 教員の全面協力体制の構築	案策定		実施体制確立	実施		就職に強い大学として、保護者及び高校から一定の評価を受けるような取り組みを実行する。
- ② キャリア形成力や就業力向上のためインターシップの積極的な推進・充実	受講率5割以上、就職率全国平均以上					
研究・創作	H29	H30	H31	H32	H33	中期目標
1. 研究・創作						
- ① 領域を横断した総合研究への大学として全面的推進・支援	案策定		テーマ数5以上			芸術と文化の街という倉敷の世界的なイメージを大切にし、地(知)の拠点「COC」大学として、教育・研究成果を発信する拠点となる。
- ② 科研費や外部資金確保による目に見えるかたちでの社会的評価の獲得	案策定	申請率8割以上	採択件数倍増(28年度比)			
2. 国際的競争力の強化						
- ① 積極的な海外研究者・アーティストとの交流	全学部で実施					倉敷ブランド力を活かし、研究・創作活動の国際的競争力の強化を目指す。
- ② 日本人学生の海外留学の促進と優れた留学生の確保	留学生N1合格者数増	留学延べ人数2割増、留学生退学率2割減				
社会連携	H29	H30	H31	H32	H33	中期目標
1. 社会連携						
- ① 提携高校、他大学、地場経済界、自治体からなる地域プラットフォーム(連携拠点)の形成	折衝		実施体制確立	実施		倉敷の芸術・文化の継承と地域創生を目的として、地域社会との連携を強化する。
- ② 地域プラットフォーム(連携拠点)間での共同研究・人材相互交流等推進	折衝		3件以上			
2. 高大接続改革						
- ① 提携高校との教員およびカリキュラム交流を強化し、地域における体系的な教育プログラムの整備	案策定		2回/年、地元就職率1割増			教育・研究成果を社会に発信し、地域社会の活性化に寄与する。
- ② 地域でのボランティア活動、まちづくりプロジェクト等の体験活動を推進し、卒業生の地域への定住化促進	案策定		受講者数50名以上	地元就職率1割増		
内部質保証	H29	H30	H31	H32	H33	中期目標
1. 内部質保証						
- ① アクションプラン自体の進捗状況や有効性・効率性を確認し、方針・規程・計画改訂等定期的に確認、検証する体制の構築	方針設定		組織案策定			内部質保証に関する全学の方針を定め、責任体制を明確にする。
2. 教職員の能力開発						
- ① 教職員の自己点検・評価の実施、育成・能力向上のための方策を策定し、計画的にFD・SD研修を実施する体制や仕組みの構築	自己評価体制	FD・SD研修体制	参加率9割以上			教職員の能力点検・評価、育成・能力向上を確認、検証する。
3. 学習環境や学生支援の点検・改善						
- ① 施設・設備等に関する点検・評価項目や基準を設定し、改善を計画的に実施する体制や仕組みの構築	点検評価改善案策定					学習環境や学習支援・生活支援などを向上させる。
4. 質保証への外部関係者の関与						
- ① 外部関係者の参加や意見聴取により、質保証の客観性や専門性を確保し、公平な点検・評価の実施のための仕組みの構築	点検評価実施体制案策定					各種内部質保証検証において、定期的な外部関係者からの意見聴取の機会を設ける。
経営基盤の安定化	H29	H30	H31	H32	H33	中期目標
1. 経営基盤の安定化						
(1) 組織的な大学運営						
- ① 全学的な教職協働体制の整備(各種委員会位置づけ再編)	案策定					大学の継続性に寄与する最大の要素は、地域における一定の肯定的なブランドイメージ及び信頼感である。これらを確立するために、最大限の努力ををばらう。
- ② 人件費比率適正化に向け、教員採用計画の策定と教員定数等の設定	案策定		ST比<20、人件費比率≒全国平均			
- ③ 危機管理体制や事業継続計画を整備すると共に、リスクマネジメントに関する諸規程の整備	案策定					
(2) 財政基盤の安定化						
- ① 内部資源の見直しや外部資源との連携を図り、広報機能の強化・ブランド力の確立	ランク入り項目増	ランク入り項目増	全体10位以内			
- ② 経費抑制の中期的な予算戦略を立案し、予算編成・配分方法などの見直しの実施	案策定		赤字額減少			
- ③ 入試の変革、入学者選抜体制の改革を行い、入学者を確保	案策定	入学者数年2割増				
- ④ 寄付金・補助金を含む外部資金獲得の強化	体制案策定	2割増/毎年				
- ⑤ 学納金収入以外の収入増を図るため、遊休施設、設備等の有効利用の策定	案策定	遊休施設なし	収入増			